

許すな強制収用! 守ろう自然とふるさと!

やめさせよう 石木ダム建設! 全国集会

と き **11月9日** ^土 **13:30** 開会(13:00開場)

ところ **長崎原爆資料館ホール** (長崎市平野町7-8)

入場無料
資料代500円

現地からの特別報告

『石木ダムは必要のないダムです』
いしまる はずみ さん

◎特別合唱

川原(こうばる)のうた

○報告:嶋津暉之さん(水源開発問題全国連絡会)

○地権者の声

○佐世保市民、全国の声

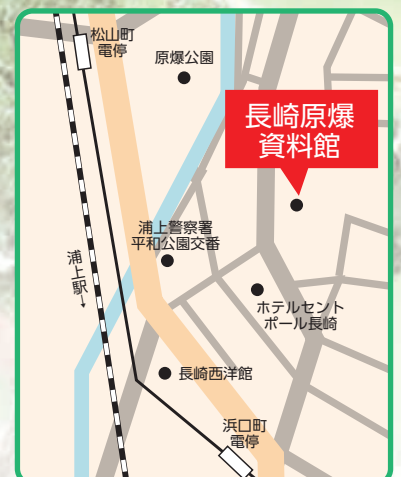
○弁護士からの報告

私たちはただ、生まれ育ったこの土地に
住み続けたいだけです。

●主 催: 「やめさせよう石木ダム建設! 全国集会」
実行委員会

●共 催: 水源開発問題全国連絡会

(呼びかけ団体) 石木ダム建設絶対反対同盟・ダムからふるさとを守る会
石木川の清流を守り川棚川の治水を考える市民の会
水問題を考える市民の会・石木川まもり隊
石木川の清流とホテルを守る市民の会



事務局: 石木川の清流とホテルを守る市民の会 (田代方)

長崎市ダイヤランド4-12-14
TEL 095-898-4033
Email: tashiro@hya.bbq.jp

石木ダムは、 必要性のないダムです！

県が掲げる目的は、いずれも石木ダム建設の理由を無理矢理つくり出すために考えられたものです。石木ダムは川棚川の治水対策として不要なものですし、佐世保市の水道は石木ダムがなくても、何も困ることはありません。

私たちの主張

水道用水供給？

①佐世保市水道の需要は減り続け、水源に余裕があります

佐世保市水道の水需要は 1999 年度から減り続けています（図 1 参照）。2011 年度の一最大取水量は 82,400 m^3 /日まで落ち込んでいます。

佐世保市は安定水源が 77,000 m^3 /日しかないとしています。しかし、渇水時のデータを見ると、不安定水源とされている水源が少なくとも 15,000 m^3 /日以上使われていますので、実際の安定水源は 92,000 m^3 /日以上あります。

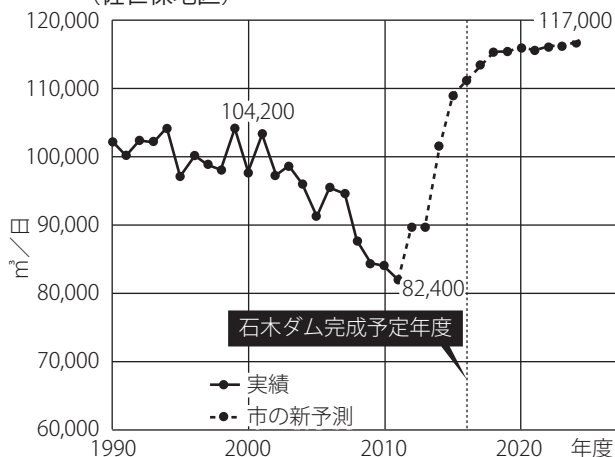
現状では保有水源に約 1 万 m^3 /日以上以上の余裕があり、水需給に不足をきたすことはありません。

②架空の予測を続ける佐世保市

佐世保市水道の水需要が 1999 年度から減り続け、2 割も減っているのに、佐世保市はこの実績の傾向を無視し、2014 年度から V 字回復して急増していく架空の予測を行っています（図 1 参照）。石木ダムの予定水源 4 万 m^3 /日が将来は必要となるように、数字をつくりあげているのです。

実際には佐世保市水道の需要は人口の減少と節水型機器の普及によって、今後も減少傾向が続いて、水需給の余裕度が次第に高まっていますので、石木ダムの水源が必要となることはありません。

図 1 ■佐世保市水道の 1 日最大取水量の実績と市予測（佐世保地区）



出典：佐世保市水道局の資料

一日最大取水量の実績は一日最大給水量の実績からの換算値を示す。この換算には 2007～11 年度の利用量率の実績平均 97.4%を用いた。

洪水被害の軽減？

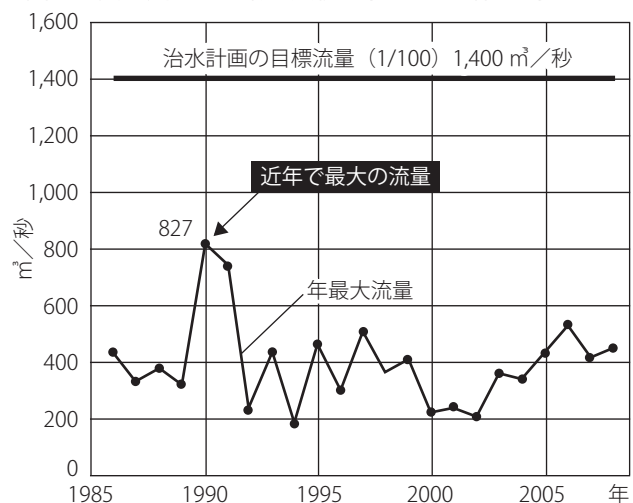
①石木ダムは川棚川下流部に合流する石木川に造るダムで、川棚川の治水対策としてなぜこのような場所をつくるのか、もともと不可解なダムです。

②石木ダムが治水計画で必要となるのはきわめて大きな洪水が来た時（近年最大洪水の約 1.7 倍、図 2 参照）だけで、必要性が希薄です。ただし、この洪水が来ても川棚川は溢れません。

③近年最大の洪水（1990 年）で起きた川棚川下流域の浸水は支川の氾濫や内水氾濫（降った雨が排水路等で流し切れずに溢れてしまう現象）によるものですから、石木ダムでは防げません。

石木ダム事業に河川予算が使われ、本来必要な川棚川の治水対策（堤防整備・強化、河床掘削など）がなおざりにされています。

図 2 ■川棚川・山道橋の実績洪水流量と計画洪水流量



出典：長崎県土木部河川課の資料。1990 年の実績は中田橋の観測値からの推定。

流水の正常機能維持？

川棚川は実際には渇水時にも必要な流量が流れていますので、石木ダムからの補給は必要ありません。

以上のように石木ダムは

全く必要性がないダムなのです。

そのように不要なダムのためにダム予定地の私たちは、40 年以上も苦しめられ続けてきているのです。皆さまからのご支援をよろしくお願いいたします。